



iPhone「12 mini」の失敗で「SE3」登場が確実に



米アップルのスマートフォン「iPhone 12 mini」の販売が振るわない。小型の「iPhoneSE」の第1世代、そして第2世代が相次いでヒットしたため、「3匹目のどじょう」を狙って投入した12 miniだが、消費者には受け入れられなかったようだ。12 miniの「失速」で、SEの第3世代が登場する可能性が高まった。

「小さいが高い」iPhoneは売れない？

米調査会社CIRPによると、12 miniは発売直後の2020年10月～11月にiPhone総販売台数のうち約6%しか売れなかったと分析。米市場調査会社Counterpointによると、2021年1月前半でもiPhone12シリーズ全体の5%しか売れておらず、販売不振は長期化している。JPモルガンは2021年第2四半期までに12 miniの生産が中止される可能性があるとして指摘した。

販売不振が続く小型モデルの「iPhone12 mini」（同社ホームページより）

12 miniは標準モデルの「iPhone 12」を小型化し、価格を1万1000円値下げした機種だ。小型化して値下げといえば、SEシリーズ。第1世代、第2世代ともに新モデルよりも一回り小さい旧モデルの筐体（ボディー）を流用し、機能を最新にしたモデルだ。

アップルは「高級化路線」が基本で、格安のSEシリーズを事実上値上げしたモデルとして開発したのが12 miniだと考えられる。が、その「高級化路線」は消費者にそっぽを向かれたようだ。

相変わらず販売が堅調なSE第2世代と不振の12 miniをみれば、消費者はSEシリーズの小型化よりも低価格に魅力を感じていたことが分かる。SEシリーズはアップルの市場を拡大する「入門機」あるいは低価格の 안드로이드OS端末へのユーザー流出を防ぐ「防波堤」として重要な役割を果たす。

12 miniがその役割を果たせないのなら、SEシリーズの次世代モデルを発売するしかないだろう。SEシリーズは旧モデルのボディーに最新モデルの部品を換装するだけなので、大きな開発投資は必要ない。

（次ページに「iPhoneSE（第3世代）」の予想スペック表）

SE3は「大きくて安い」iPhoneに

では、SEシリーズの第3世代は、どのような端末になるのか。これは容易に予測できる。前モデルの標準機種「iPhone11」のボディーに、iPhone12の機能を実装したモデルになるはずだ。コンセプトは昨年から発売が噂されている「iPhone SE Plus」に近い。

画面サイズは6.1インチと12 miniはもちろんのこと、SE（第2世代）よりも大きくなる。そもそもSEは低価格版ではあるが、小型版

ではない。iPhoneシリーズはモデルチェンジごとに大型化されてきた。SEシリーズが「小型」なのは、コストダウンのためにボディーを流用した旧モデルが新モデルよりも小さかったからにすぎない。

画面は液晶のままだろうが、ロック解除は顔認証になる。背面カメラは広角と超広角のツインカメラとなるだろう。これはiPhone11のボディーを流用するため、現行のSE第2世代と同じ指紋認証やシングルカメラのままだと、かえって改造コストがかかることになる。

「iPhoneSE（第3世代）」のボディーとなる「iPhone11」には指紋認証センサーがない（同社ホームページより）

CPUは今年前半に投入されるなら現行の「A14」、今年後半から来年以降なら次期「A15」の可能性もありそうだ。通信規格はiPhone11では第4世代（4G）だったが、コンテンツで高収益を目指すアップルにとって大容量データ通信は必要になるだけに、最新の第5世代（5G）に換装することになるだろう。

「iPhoneSE（第3世代）」の予想スペック

仕様（SE 第3世代は予想） iPhone12

mini iPhoneSE（第2世代） iPhoneSE（第3世代）画面サイズ5.4インチ4.7インチ6.1インチディスプレイ有機EL液晶液晶通信規格5G4G5G背面カメラ広角/超広角・1200万画素広角・1200万画素広角/超広角・1200万画素CPU A14 A13 A14またはA15認証方式顔指紋顔防水性能6mで30分間1mで30分間2mで30分間記憶容量64/128/256GB64/128/256GB64/128/256GBまたは128/256/512GB電池容量15時間13時間17時間最低価格（税抜）7万4800円4万4800円4万5000円前後

SEシリーズの第3世代が発売されれば、「iPhone13 mini」が登場する余地が残る。もはやSEシリーズには低価格版としての役割しかなく、小型版のニーズに応えるには13 miniを投入する必要があるからだ。

文：M&A Online編集部